

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

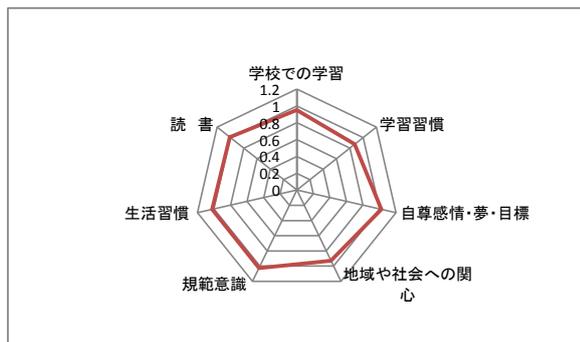
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話す・聞くことについての問題に課題がある。日頃から、話し合い活動の充実に取り組む必要がある。	下回っている
国語B	読むことについては、取組の成果が少しずつ出ているようである。目的や意図に応じて書くことについて課題がある。	下回っている
算数A	数量関係や図形についての問題に課題がある。基礎的・基本的な学習問題の定着を図る必要がある。	下回っている
算数B	応用問題に対しても、粘り強く取り組むことができるようになった。問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ 普段(月曜日～金曜日)、1日あたり60分以上勉強している児童の割合は減少している。
- ・ テレビ等の接触時間は減っているが、テレビゲームやスマホ・携帯を使ったゲームに3時間以上接触している児童の割合は増えている。
- ・ 学校のきまりを守っているという児童の割合は全国平均より高く、規範意識は高い。
- ・ 自分にはよいところがあると答えた児童の割合は高くなったが、依然として自尊感情が低い傾向にある。
- ・ 将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 毎週水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。
- ・ 授業の中に、「話し合う活動」を効果的に取り入れるなどの授業改善に取り組む。
- ・ 基礎的・基本的な学習の定着や、個に応じた指導の充実のために、放課後の時間(週1～2回)を利用して、定期的な補充学習の時間を設ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について、児童及び保護者の方への啓発を行う。
- ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進するとともに、自学ノートを作成し、自宅での復習などに取り組ませる。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果の概要や、課題や取組等を学校だより、学校HPで周知する。